

KSKP



とく てい ひ え い り か つ ど う ほ う じ ん

特定非営利活動法人 リアライズ

に ゆ ー す

# リアルライフNEWS

## vol.6

1984年8月20日第三種郵便承認 毎日発行

こ ん か い つ う し ん か わ も と き か く た び と く し ゅ う  
今回の通信は、川本企画ダーツの旅を特集します！

で あ も と か わ も と む さ き  
出会いとネタを求めて川本が向かった先は？！

☆☆☆ こ ん か い ぞ う り ょ う お く  
今回は増量20ページでお送りします！ ☆☆☆



※ ダーツの旅で向かった目的地での1枚です。さて、どこでしょう？ 正解は本編で...

# フィールドワーク始めました！

## フィールドワークって何？

今年度より、リアライズでは新事業として、桃山学院大学のフィールドワークの受け入れを始めました。

フィールドワークとは、桃山学院大学社会学部社会福祉学科の1回生を対象とした必修の科目であり、社会福祉の現場を見学し、体験することを目的としています。

障害当事者が主体となり運営する自立生活センター、障害者福祉において、もっとも大切な障害当事者の声が反映される場所であるのに、大学の講義ではほとんどといってよいほど「自立生活センター」については触れられない現状があると思います。そこで、リアライズでは、自立生活センターを知ってもらおうべく、このフィールドワークの受け入れ参加に乗り出しましたっ！！

## フィールドワーク開始に至るまで…

今年4月に約30の受け入れ団体による、桃山学院大学1回生に向けたフィールドワークの説明会がありました。そこで、桃山学院大学学生のヘルパーとともに、リアライズの活動について話しました。

説明会が終わり、何人の学生が興味を持ってくれたのか少し不安になりました。というのも、受け入れ団体の中には、参加希望人数が0人のところも少なくないとの情報を聞いていたからでした。もし参加希望学生が0人なら、今年のフィールドワークは企画倒れということになります…。

それから待つこと2週間、参加希望学生について学校から連絡がありました。なんと当事者の学生がリアライズを希望しているとの報告でした！その学生は、筋ジストロフィーの当事者ということもあり、以前三井が少し、話したことがあった方でした。リアライズの活動に興味を持ち、自立生活センターについて知ってみたいという熱い気持ちを持った学生さんです！！

## ではちょっとだけプロフィールを☆



名前：大山 塁 (オオヤマ ルイ)

※自分の塁という名前は野球のベース＝塁に由来にすること

桃山学院大学社会学部社会福祉学科の1回生で、現在は大学の近所に親と同居して生活しています。巨人を愛する、コテコテの巨人ファンであり、特に小笠原選手には目が無いようです。

今回の通信では、フィールドワークの第1回～第3回目の様子を報告したいと思います。

## 第1回フィールドワーク 自立生活センターを知ろう

第1回目は、リアライズで行いました。スタッフの自己紹介、大山君の自己紹介をしてもらい、初めは緊張した様子的大山君…

しかし、そんな大山君をよそめに、大山君に興味津々のリアライズスタッフからの質問タイムが始まりました！「彼女いるん？」「大学の

楽しい？」「なんかサークル入ってるん？」「趣味何なん？」等々…。質問をするごとに大山君の表情は緩くなり、緊張がほぐれた様子でした。大山君への質問の中に、「好きなものは何？」との質問があり、それに対して大山君は「野球が好きなんです！」と答えていました。その後、スタッフが「観戦しにいったことあるん？」と聞くと、「したことはないです、一度行ってみたいですね」と…。

じゃあ…リアライズのフィールドワークを通して、その希望を実現してみては？という提案に、本人はしてみたい！！とかなりの意気込みでした。今後、大山君の夢実現に向けて一緒に、動いていきたいと思えます☆

今回のフィールドワークでは、自立生活運動、自立生活センターについての学習をしました。

大山君は今回、『初めて自立生活センター、自立生活運動については、学習することができ、またリアライズの活動や役割を知ることができ、自分の生き方、考え方にプラスになった。』と話していました。

## 第2回フィールドワーク in メインストリーム協会 自立生活センター見学の巻パート1

第2回フィールドワークでは、兵庫県西宮市にあるメインストリーム協会に見学に行きました。メインストリーム協会では、呼吸器を使い、自立生活を行っている同じ筋ジストロフィーの二人の当

事者に会って話しました。自立生活をしている二人に会えることを楽しみに待っていたようです。会えると決まった日には、「本当ですか？！それはいい機会になると思います！ありがとうございました！」とかなりテンションが上がっていました(笑)

大山君自身、自立生活に対する興味はあるものの、医療面でのサポートや、介助のことが不安で、「自分にはできるのだろうか…」という思いがあったそうです。しかし、二人の話聞いて、リスクを負うこと、生活の力を身につけること、制度と介助派遣をうまく使い分けることで自分の生活ができることがわかり、頭のモヤモ



やはとれたようです☆

また、今、メインストリーム協会では、TRY (日本やアジアの国々で野宿しながら歩き、バリアフリーや、障害者の権利を訴える活動、今年は台湾で行われる) ムードが高まっていて、二人もそれに参加するというのを聞き、呼吸器を付けながら野宿生活するなんて…と大山君は驚きを隠せない様子でした。TRY のような活動であっても、大学生活であっても、筋ジストロフィーという病気、呼吸器を付けているという理由で、自分のしたいことができない状況はおもしろくないし、呼吸器は別に、特別な機械ではなく、視力の悪い人が眼鏡を使うのと同じようなものと考えているという二人の話に、大山君は深く頷いていました。

大山君は、「自立生活をしている筋ジストロフィーの当事者に、これまで会ったことがなく、今回話せる機会ができたことを今後の自分の生活を考える上で、とても貴重な経験ができた。」と話していました。

## 第3回フィールドワーク in 夢宙センター 自立生活センター見学の巻パート2



第3回目となるフィールドワークでは、大阪市住之江区にある自立生活夢宙センターに見学に行きました。

夢宙センターに到着し、早くも、夢宙センターのモットーについて、当事者スタッフから話がありました。大山君は、夢宙センターの「ひとりじゃない、仲間がいるから強くも優しくも楽しくも出来るんだ!!」というモットーを聞き、深く感銘を受け、「障害があるからといって、ひとりであったり、仲間がいなかったり、楽しくなかったりすることはひとつもないのだ。」ということ、改めて強く感じたと話していました。この言葉からパワーをもらったようです☆

次に夢宙センターの作業所である「すぺーすしゃとる (以下しゃとる)」を見学に行きました。しゃとるに通っている皆さんから大山君に、自己紹介と、自分にとっての自立生活の楽しさについて話していました。今回のフィールドワークでは、自立生活の話だけではなく、実際に自宅に見学する予定を立てていたため、しゃとるの代表である坂口さんの自宅に行きました。坂口さんの自宅は、車イスのまま入ることができ、とても動きやすく、大山君は驚いた様子。自宅では坂口さんから大山君に、「自立するには、まず自立できたら何をしたいかという目的を持ち行動することが大切。」と話していました。

大山君は、「自立を思い立った時には、このことを思い出し、頑張っていきたい、また自立することは自己責任を負うことでもあり大変だが、楽しみもたくさんありました。」と話していました。

次回予告!

# 大山君のインタビュー企画!

桃山学院大学・和泉中央駅周辺の店舗  
バリアフリーチェックしよう!!

どうぞ期待!

じりつせい かつ  
自立生活センター・リアライズ

# 2009年度ヘルパー研修会報告

2008年4月から介助派遣事業を開始して、リアライズもおかげさまで、4月で2年目を迎えることができました。3月には新しいスタッフ2人(当事者、健常者、各1名)も加わり、ますますパワーアップした2009年度の研修会の報告をご覧ください。

## 第1回目 テーマ:「こんな介助はどうですか?」

日 時: 2009年4月12日(日曜) 13時00分から16時00分まで

場 所: リアライズ事務所

参加者: 17名

内 容: ・緊急時対応について

・こんな介助はどうですか? (DVD上映)



### ～第一部～

テーマ: 緊急時対応について

第一部では、「緊急時対応について」ということで、当事者スタッフから自身の障害特性のことや、これまで経験してきた事故などの体験等々を含む、様々な具体的な事例を聞きながら、介助事故防止の基本的なこと、緊急時の対応方法、連絡網などを改めて確認しあいました。



### ～第二部～

テーマ: こんな介助はどうですか? (DVD上映)

第二部では、リアライズのNHK(ナガセ、ヒロシ、カワモト)映像製作班が総力を挙げて作り上げた研修会用DVDを上映しました。

内容は、リアライズが介助派遣事業を開始してきた一年間で、実際に介助中に起こったエピソードや当事者スタッフの幼少期のエピソードなども一部織り交ぜました。

撮影・監督は長瀬、重度障害者役には川本、友だち・介助者役には山本(友情出演として登録ヘルパーの星野君)が出演し、撮影は深夜から明け方にかけて

かわもと じたく おこな  
川本の自宅で行われました。

きつえいしゅうりょうご  
撮影終了後は、それぞれ性も根も尽き果てて、川  
もと どころ のむい ほか  
本は泥のように眠り、他のメンバーもゾンビのよう  
うごめきながら、白々と明け始めたドアの向こうの  
せかいにち ち  
世界に散っていきました (笑)。

**シーン1：友だちと障害者**

ある日、重度障害者の自宅に友だちが2人遊びに  
来る。3人で一日を過ごすことになるが、そこに  
かいじょしゃ そんざい かいじょ  
介助者の存在はない。介助がなければ、食事、着替え、  
はいせつ いどう・がいしゆつなどなど まったく  
排泄、移動・外出等々が全くできない障害者は、様々  
な場面で友だちに介助を要求する。しかし、介助に  
しょうきよくてき とも たびかさ ようきゅう たい めんどうく  
消極的な友だちは、度重なる要求に対し、「面倒く  
さい、やりたくない」などと言いはじめめる。



果たして3人  
は無事楽しい

一日を過ごすことができるのか？

**シーン2：介助者主体の自立支援を目指す介助者と障害者**



だいがく しゃかい  
大学で社会  
ふくし まな かいじょしゃ  
福祉を学び介助者  
となった山本は、  
かいごはけんじぎょうしょ  
介護派遣事業所ス  
マイルイズベスト

に就職。障害者の自立支援の仕事望んでいた彼は  
遂に念願の重度障害者の自宅に介助派遣をされる。

やる気満々のスマイルイズベスト山本は、障害者  
の指示に次々とダメだしをし、自身の自立観に基づい  
た介助を展開していく。

果たして障害者は自分らしい一日を過ごすことが  
できるのか？

**シーン3：介助者が介助者主体の自立支援をされる**

ある日曜の朝、突然、謎の訪問者にスマイルイズベ  
スト山本(介助者)は起こされる。休日を家でダラ  
ダラと過ごそうと  
していた山本は、  
謎の訪問者から  
自立支援の名の下  
に次々と行動を  
妨害されていく。



「俺は自立してるんや！」と声を荒げるスマイルイ  
ズの休日は、果たしてどんな結末を迎えるのか？

**感想**

第二部では、演じているとはとても思えない迫真の  
演技に、参加者からはフィクションではなく本気でや  
っているのでは？という声があがり、一部で上がって  
いました。

それぞれ映像を通して、介助者としての自分の姿  
を重ね合わせ、改めて自分の介助者としてのあり方  
を振り返る機会になったとの感想が多く寄せられま  
した。

また、シーン3の「介助者が自立支援をされる」で  
は、介助者がいち健康者として、介助者主体の自立  
支援をされる側に回るということを疑似体験してい  
くという設定で、これまでにない新しい視点である  
ということで、当日参加した障害者、介助者の双方か  
ら好評でした。

# 第2回目 テーマ：「指示に基づく介助とは ～障害者と介助者の関係性を見つめ直す～」

日時：2009年6月14日（日曜） 11時00分から16時00分まで

場所：大阪府内（外出介助の実習）

参加者：16名

内容：指示に基づく介助とは～障害者と介助者の関係性を見つめ直す～

今年度第二回目の研修会は、「指示に基づく介助とは～障害者と介助者の関係性を見つめ直す～」というテーマで、全体を3つのグループにグループ分けをし、当事者役（肢体不自由で車イス使用）、介助者役、観察者役に分かれ、当事者スタッフと共に街に繰り出しました。

道すがら順番に役割を交代しながら、それぞれ目的地に向かって電車など公共交通機関を利用しながら、買い物、食事など様々な体験をしました。

あるグループでは、昼食にバイキング形式のお店を選んで、当事者役の人は、全て介助者に指示を出しながら食事をするということも行いました。そのと

き、当事者役の人は、うまく指示を出すことができず、思うように動いてくれない介助者に悪戦苦闘し、半ば諦めの境地で食事をしていた場面もみられました。しかし、当事者役から変更した途端…食欲が復活していたようでした（笑）

今回の研修会では、当事者の体験をすることや、実際に自分以外の介助者がどのような介助を行っているのかを観ることで、当事者が指示を出すことの難しさ、当事者の目線、周囲の視線を感じ、また、介助者としての指示の受け方、介助の仕方を改めて見つめ直す機会となりました。



とくしゅう そ  
特集 其の1

# 夢の冒険！ ダーツの旅！！



こんにちは、<sup>あば</sup>暴れん坊将<sup>ぼうしやう</sup>kun <sup>かわもと</sup>こと川本です。リアルイズでは、<sup>こんかい</sup>今回<sup>なん</sup>なんと<sup>はじ</sup>初めての<sup>こころ</sup>試みとして<sup>かいじよ</sup>介助<sup>ひつよう</sup>が必要な<sup>とうじしや</sup>当事者<sup>かいじよしや</sup>スタッフが<sup>つ</sup>介助者<sup>つうこうにんかいじよ</sup>を付けずに<sup>たび</sup>通行人<sup>で</sup>介助で旅に出るとい<sup>きかく</sup>う企画<sup>を</sup>することになりました。さて<sup>たび</sup>どんな旅<sup>になる</sup>になるでしょう？！

## この企画に至った経緯

ちゅう 注：この企画は決してパクリではありません！！（笑）

なぜ僕がこのような企画を提案したかという<sup>もともとそと</sup>と元々外に出るのが好きで<sup>たび</sup>旅をしてみたいという<sup>がんぼう</sup>願望<sup>だいひよう</sup>があり、<sup>みつ</sup>代表<sup>みつ</sup>の三井<sup>はじ</sup>を初め<sup>ほか</sup>他のスタッフに<sup>はなし</sup>話をしたところ<sup>たの</sup>楽しそう<sup>やから</sup>やからやってみたら<sup>ええやん</sup>ええやん！ということで、<sup>けつてい</sup>決定<sup>しました</sup>しました！

さすがに<sup>ところ</sup>所<sup>じョ</sup>ジョ<sup>ジ</sup>さんの<sup>ばんぐみ</sup>番組<sup>のよう</sup>のように、<sup>にほんぜんいき</sup>日本全域<sup>はんい</sup>を範囲<sup>にする</sup>にするのは<sup>むぼう</sup>無謀<sup>なので</sup>なので、<sup>こんかい</sup>今回は<sup>ひと</sup>一つの<sup>けん</sup>県の<sup>ちず</sup>地図<sup>かくだい</sup>を拡大<sup>かべ</sup>し壁<sup>は</sup>に貼り、<sup>ぼしよ</sup>ダーツ<sup>き</sup>で場所<sup>を</sup>を決めるとい<sup>う</sup>うことになりました。



そこで、<sup>きんきちほう</sup>近畿地方<sup>なか</sup>の中で<sup>いち</sup>一・二<sup>に</sup>を争<sup>あらせ</sup>う<sup>ちいき</sup>バリアフル<sup>おも</sup>な地域<sup>わか</sup>と思われ<sup>わか</sup>れる和歌山<sup>かやまけん</sup>県<sup>を</sup>をターゲット<sup>き</sup>に決めました。そして… <sup>な</sup>ダーツ<sup>やく</sup>の投げる<sup>だいひよう</sup>役<sup>みつ</sup>を代表<sup>たの</sup>の三井<sup>に</sup>に頼み…

## 当日のやりとりの再現



と、<sup>わけ</sup>いう訳<sup>ともがしま</sup>で友ヶ島<sup>い</sup>に行くことになった<sup>かわもとくん</sup>川本君<sup>なび</sup>。どんな旅<sup>になる</sup>になるんでしょうか？<sup>かわもとくん</sup>川本君<sup>ま</sup>を待ち受ける<sup>う</sup>モノはっ？！

## いざ出発の時

けっこうび あさ ぼく  
決行日の朝、僕

のじたくの もより  
の自宅の最寄り

えき である なんかいせん  
駅である南海線

きた すけまつ えき  
北助松駅まで

かいじょしゃ と いっしょに  
介助者と一緒に



いき、そこから先は通行人介助を使い、一人で友ヶ島  
まで向かいました。

そしてもう1人、リアライズのスタッフである長瀬  
がカメラマンとして同行しました。無論、僕の介助は  
一切しないという約束です。

午前8時、北助松駅から乗車し泉大津駅で急行に  
乗り換え、和歌山市駅まで行き、和歌山市駅から南海  
加太線の電車に乗り、終着駅である加太駅へ向か  
いました。

加太線の電車に乗っていると、小学生の遠足の  
集団と共に乗車することとなり、車椅子に乗ってい  
る僕の姿が珍しかったのか、すごく注目を浴びまし  
た。

しかし、クラスの担任らしき教師は子どもたちを  
僕に近づけまいとしていたではありませんか。そこで、  
僕は自ら子どもたちに声をかけてみることにしまし  
た。

川本：「どこまで行

くの？」

子ども：「二里ヶ浜」

川本：「遠足？」

子ども：「うん！」



と、いう感じに子どもたちとは違和感なく話すこと  
ができました。

クラスの教師は、子どもを僕に関わらせないように  
子どもたちを遠ざけようとしていましたが、子どもた  
ちはそんな思惑とは関係なく僕が声をかけると普通  
に会話をする、そんな子どもの反応は素直だなあと思  
いました。

その後、午前10時に加太駅に到着後・・・

事前に代表の三井から渡されていた指令書を駅前の  
喫茶店の店主に開けてもらうことにしました。

川本：「すみませ〜ん！」

店主：「は〜い」

川本：「車いすの後ろのカバンに入っている封筒を  
取ってもらえませんか？」

店主：「ここに入ってるんか？」

川本：「はい。お願いします。」

店主：「これでいいんか？」

川本：「はい。そしてその封筒を開けてもらっていい  
ですか？」

と店主が封筒を  
開けると、中に指  
令書が入っていま  
した。



内容は『加太に住んでいる障害者と記念撮影をしよう！』というものでした。

加太駅から友ヶ島船乗り場までは約20分の距離で  
障害者を探しながら向かっていました。

途中、通行人のおばちゃんにこの地域に住んでいる  
障害者で知っている人が居るのかを聞いたところ、  
丁寧に教えてくれました。

川本：「すみません〜ここのご近所に住んでいる

障害者の人って知っていますか？」

おばちゃん1 : 「この辺では、あんまりみいへんなあ〜」

おばちゃん1 : 「どっからきたん？」

かわもと 本 : 「大阪府の泉大津市からです。」

おばちゃん1 : 「あっそうなん、大変やねえ〜」

という会話が繰り返り広げられたのですがその後おばちゃん1が僕に突然、1,000円をくれたじゃありませんか。

かわもと 本 : 「いやっそんなんいりません」

おばちゃん1 : 「これでジュースでも買って飲みい〜」

かわもと 本 : 「いやっ結構です。」

おばちゃん1 : 「え〜からえ〜から」



かわもと 本 : 「…」

そしておばちゃん1は1,000円を僕の膝の上に置き、通りがかりのおばちゃん1のところへ話しに行っていました。しかし、その10秒後に1,000円札を道に落としてしまいました。



かわもと 本 : 「あのう〜すみませ〜ん」

おばちゃん1 : 「どうした〜ん？」

かわもと 本 : 「1,000円札を地面に落としてしまったので、拾ってもらえますか？」

おばちゃん1 : 「もう、落としたらあかん〜」

おばちゃん2 : 「どうしたんや」

おばちゃん1 : 「いやっこの子が泉大津から一人でここまで来たっていうからね」

おばちゃん2 : 「そうなんか〜」



おばちゃん1 : 「どこにいれたらいいの？」

かわもと 本 : 「いやっ別ににお金

はいらないんですけど・・・」

おばちゃん1 : 「もう、ええからええから〜」

かわもと 本 : 「そしたら車いすの後ろにあるポーチの中にいれといてもらえますか？」

おばちゃん2 : 「じゃあここに入れとくでえ〜、見といてや〜、もう落としたらあかんよ〜」

かわもと 本 : 「あっはい」

なぜか僕は、可哀想な障害者に見えるらしく過去にも数回お金を貰ったことがあります。しかし、僕からしてみると障害者は可哀想な存在だから善意で1,000円をあげるという考え方がおかしいと思うのですが...

結局、押し切られてしまい1,000円をカバンにねじ

こまれてしまいました。(苦笑)

やはりおばちゃんパワーってすごいなあ実感した瞬間でした。

そして船乗り場へ移動し、友ヶ島へレッツゴー！！

いざ、友ヶ島へ！！と、思いきや・・・

僕が1,000円騒動に巻き込まれている間に長瀬が船舶会社の人と話をしていたようで、どうやら僕

自身は乗れるけど、電動車いすを船に乗せるのは難しいという話になっている



ようなんです。もし電動車いすを置いて僕の身体だけが船に乗れたところで友ヶ島に着いてから身動きが取れない状況になり、友ヶ島に行く意味がないと思った僕は乗り場へ行き、

川本：「すみません～電動車いすを船に乗せることは無理ですかあ？」

船舶会社社員：「潮の満ち引きの関係で電動車いすを船に乗せるのは困難ですね」

川本：「でも乗れないことはないんですよね？」

船舶会社社員：「三人で担ぎあげることができるんやったらねえ」

干潮だったこともあり埠頭よりも船の方が低かったため電動車いすを積むのが難しいということで、船



「栈橋と船の間です。ここからのみしかありません。高さ80cmくらい??」

に乗ることを断られそうになりました。しかし、

川本：「じゃあ僕はそのまま一生、種子島へはいけないということですか！！(怒)」

船員：「...」

船員：「友ヶ島やる...?(苦笑)」

川本：「あっ友ヶ島でした(照笑)」

船員：「じゃあ、どうなっても知らんけど行くだけ行ってみるか？」

諦めずに根気強く交渉したことで、天然つぷりに船員の笑いをさそい、なんとか僕



も電動車いすも乗ることができました。乗船方法は僕の身体を先に数人で担ぎ上げてもらい船内の一般の客席に座りました。その後電動車いすを数人がかりで抱え上げてもらいました。

船内では、僕自身の身体は一般の席に座りましたが、海流が荒い場所もあり少し船酔いをしてしまいました。また、電動車いすは船内のスペースに置いていました。

友ヶ島上陸！！

そして、船を降りるときも乗る時と同様にまず電動車いすを数人がかりで抱えてもらい、その後僕の身体を抱え上げてもらいました。

その後、昼食時であったこともあり、港からすぐのところにある古い食堂



で昼食をとることにしました。食堂に入ると、70代と80代のおばあさんが二人が顔を出し、出迎えてくれました。

島に着いたら第2の指令書を開封するようと言われていたので、おばあさんに封筒の封を開けてもらうことにしました。

川本：「すみませ〜ん！車いすの後ろから封筒取ってもらって開けてもらっていいですか？」

おばあさん：「え？これでいいの？」

川本：「はい。お願いします。」

おばあさん：「(封筒)ビリビリ〜」

内容は『島民と写真をとみましょう』という指令で、早速指令書を開けてくれたおばあさんをお願いをし、記念撮影を行いました。その後、昼食でチキンライ



スを注文し、この旅の趣旨でもある、他の人に介助をしてもらうことを伝え、食事介助を

してもらうことにしました。

川本：「あの〜すみません。自分で食べることが出来ないの、食べさせてもらえませんか？」

おばあさん：「ええよ。やったるわ。」

川本：「ありがとうございます。」

食事介助をしてもらいながら友ヶ島の話やおばあさんたちの生い立ちなどいろいろな話を



しました。友ヶ島が戦時中に軍事要塞として利用され

ていたことや、その名残で今でも6か所の砲台跡が残されていること等の歴史的な部分を教えてくれました。

また、自然豊かな島でいのししなどの動物や、珍しい昆虫なども多数生息しているなどということも教えてくれました。そして無事昼食を済ませ、友ヶ島を一周すべく歩き始めました。島を一周するため

にはハイキングコースを通らなければなりません。しかし、ハイキングコースは思った以



上に砂利と小石が多く電動車いすが何度も転倒しかけました。また山道を上がっていくため、もし運転に失敗してしまった場合は崖に転落してしまう

可能性がありました。そんな道を登っていましたが、島を一周するどころか1km進むのがやっとなら

以上進んだら電動車いすも僕自身も砕け散ってしまうというくらい険しかったため、それ以上先に進むことを断念し、昼食をとった食堂に戻り休憩を

とりました。その後、今度は反対から島を一周しようと試みましたが、やはり砂利や小石が邪魔をし、前へ進むことが困難でした。そうこうしているうちに、

帰りの船の時間になり、行きと同様に電動車いすと僕とを数人で抱えてもらい、加太へと戻りました。その

後、一番最初の指令である加太に住んでいる障害者がいるのかどうかを確かめるために、たまたま見つけた和歌山市役所加太支所で、加太周辺に住んでい

る障害者はいらぬのかと聞いたところ、加太支所では把握していないとのことでしたが、役所の職員も

数年間勤務しているが一度も見ることが無いと言っ

ていました。そして加太  
駅へ向かい、そこで駅員  
さんと記念撮影を撮り、  
無事帰路につくことがで  
きました。



今回の旅は苦難の連続でしたが、旅好きの僕は本当  
に楽しかったです。  
次回もダーツの旅を決行していきたいと思いま  
すので、よろしくお願ひします。

## ダーツの旅に行ってみた感想

かわもとまさかつ  
川本将勝

今回、友ヶ島までの道中にいろいろな出来事がありました。

まだまだバリアフルなところもたくさんありましたが、出会う人、出会う人皆さん暖かい方で、そのひとたちの助けがあったので無事事故もなく帰ってくる事が出来たと思います。

時には、苦難なことや 1000円騒動のような有難迷惑な事もありましたが、そういうことに遭遇するのでもダーツの旅の醍醐味なのかなあと思いました。

僕はこのダーツの旅を通して、いろいろな人との出会いがあり、本当に楽しかったです。

## ダーツの旅を終えて・・・

ながせつばさ  
カメラマン長瀬翼

ダーツの旅と称した無謀極まりない旅を撮影する為、カメラマン  
で同行した長瀬です。

今回の僕に与えられた使命は、旅の途中で、川本氏の身に危機が迫  
ったとしても、一切、介助をせずに撮影に徹底するというものでした。

これは、僕にとっては燃え盛る火の中に裸で飛び込むよりも辛く、泉大津のナイチンゲールとして呼  
び名が高い僕は心を鬼にして快諾しました。

行く先々では、巨体を揺らしながら汗だくで電動車イスを操作する川本氏がとても珍しいようで、  
周囲から好奇な視線を一身に受けながら撮影は進みました。川本氏いわく、それはまるで、一躍スタ  
ーになった気分になるのだそうです。

さて、そんなスター気取りの川本氏といえば、天然愛されキャラとして一部のマニアでは人気があり  
ます。今回の旅でも、その愛されキャラをいかに発揮し、旅先で出会う人々も、川本氏の無理難題  
に快く付き合ってくださり、拳句の果てにはお金までくれる人も出現しました。

最大の試練である友ヶ島に上陸後は、行く手には様々な障壁が立ちばかり、何度か絶体絶命のピ  
ンチに遭遇しましたが、その度、僕は手を差し出したい気持ちをグッとこらえ、撮影に専念しました。

川本氏にも、その僕の思いは伝わったようで、数々の難関を孤独に耐え、サバイブしていきました。

そのときの川本氏の必死な形相は、実は「お前だけでも生き抜け！」という人生のエールを僕に送っ  
ていたということ、全てが終わった後に気づいたのでした。



旅終了後、居酒屋でパチリ

# 特集 其の2

あば ぼうしょうく ん だい だん  
暴れん坊将Kunプロデュース第6弾☆

# はごろも えき じえいあーる ひがし はごろも えき 羽衣駅・JR東羽衣駅の じょうほう バリアフリー情報！！

こんにちは！<sup>あば ぼうしょうく</sup>暴れん坊将<sup>かかわもと</sup>kun <sup>ぜんごう せんげん</sup>こと川本です。さて、<sup>とお おおはば</sup>前号に宣言した通り大幅にリニューアルをし、<sup>みな</sup>より皆さんにお役立て出来る<sup>やくだ</sup>情報<sup>で き</sup>をお送り<sup>じょうほう</sup>したいと思います<sup>おむ</sup>。今回は<sup>こんかい</sup>南海線<sup>なんかいせん</sup>羽衣駅<sup>はごろもえき</sup>と<sup>じえいあーるひがし</sup>J R 東羽衣駅<sup>はごろもえき</sup>のバリアフリー情報<sup>じょうほう</sup>をお届け<sup>ほう</sup>したいと思います<sup>おむ</sup>。

## なんかい はごろもえき 南海羽衣駅



<sup>なんかいせん はごろもえき</sup>南海線羽衣駅は、<sup>たかいしえき</sup>高石駅と<sup>はまでらこうえんえき</sup>浜寺公園駅の間にあり、<sup>ふつう</sup>普通電車と<sup>きゆうこうでんしゃ</sup>急行電車が<sup>ていしや</sup>停車する駅です。なんば<sup>ほうめん</sup>方面から<sup>ライズ</sup>ライズの事務所へ来られる場合は、<sup>きかいえき</sup>堺駅が<sup>はごろもえき</sup>羽衣駅で<sup>ふつう</sup>普通電車に<sup>か</sup>乗り換えて<sup>はやく</sup>来ると早く着きます。

<sup>はごろもえき</sup>羽衣駅はホームから<sup>かいまつ</sup>改札にかけては<sup>かいたん</sup>階段しか<sup>じょうこうしゅだん</sup>乗降手段がないため<sup>くるま</sup>車いす利用者<sup>りようしゃ</sup>が<sup>じょうこう</sup>乗降する際には、<sup>かいたん</sup>階段を使うこと<sup>つが</sup>になります。ただし、<sup>はごろもえき</sup>羽衣駅には<sup>えきいん</sup>駅員が2, 3人しか

<sup>まわ</sup>おらず、<sup>えき</sup>周りの駅から<sup>えきいん</sup>駅員を呼ぶことになるので<sup>ふんいじょう</sup>10分以上の時間<sup>じかん</sup>がかかります。<sup>ふつうでんしゃ</sup>普通電車と<sup>きゆうこうでんしゃ</sup>急行電車が<sup>せつぞく</sup>接続する場合もあるため、<sup>ぼあい</sup>ホームは<sup>しまがた</sup>島型となっています。(※紙面の<sup>しめん</sup>都合上、<sup>つごうじょう</sup>構内マップは16頁-17頁に<sup>こうない</sup>飛びます。)

## なんかい はごろもえき 南海羽衣駅

<sup>ジェイアールひがし</sup>J R 東羽衣駅は、<sup>はんわせん</sup>阪和線の<sup>しせん</sup>支線で<sup>おおとりえき</sup>鳳駅から<sup>ひがしはごろもえき</sup>東羽衣行きに<sup>か</sup>乗り換えて、<sup>ひとえきさき</sup>一駅先の<sup>えき</sup>ところにある駅です。<sup>ちじょう</sup>地上から<sup>かいまつ</sup>改札、<sup>かいまつ</sup>改札から<sup>じょうこうしゅだん</sup>ホームの<sup>かいたん</sup>乗降手段が<sup>かいたん</sup>階段しかありませんが、<sup>かいたん</sup>階段<sup>しじょうき</sup>昇降機があるので<sup>りよう</sup>利用することができます。ただし、<sup>えきいん</sup>駅員は<sup>ひとり</sup>一人しかいないので、<sup>くるま</sup>車いす利用者<sup>りようしゃ</sup>が<sup>じょうこう</sup>乗降する際には、<sup>まわり</sup>周りの<sup>えき</sup>駅から<sup>えきいん</sup>駅員を呼ばなければ<sup>よ</sup>なりません。そのため、<sup>じょうしゅ</sup>乗車するの<sup>ふんいじょう</sup>に15分以上の時間<sup>じかん</sup>がかかります。



じえーあーるひがしはごろもえき こうない まっ ぶ  
**JR東羽衣駅 構内Map**



でいりぐちからかいきつぐち  
 出入口から改札口

ふきんしやしん  
 付近の写真です。

ふきんこうない けんぼいき  
 駅構内から券売機や

ゆうじんかいきつ ゆうどう  
 有人改札まで誘導ブ

ロックが敷設されていま

すがおんせい・おんきょうあんないは

ありません。



ホームにけいこく  
 ホームに警告ブ

ロックはせつち  
 ロックは設置さ

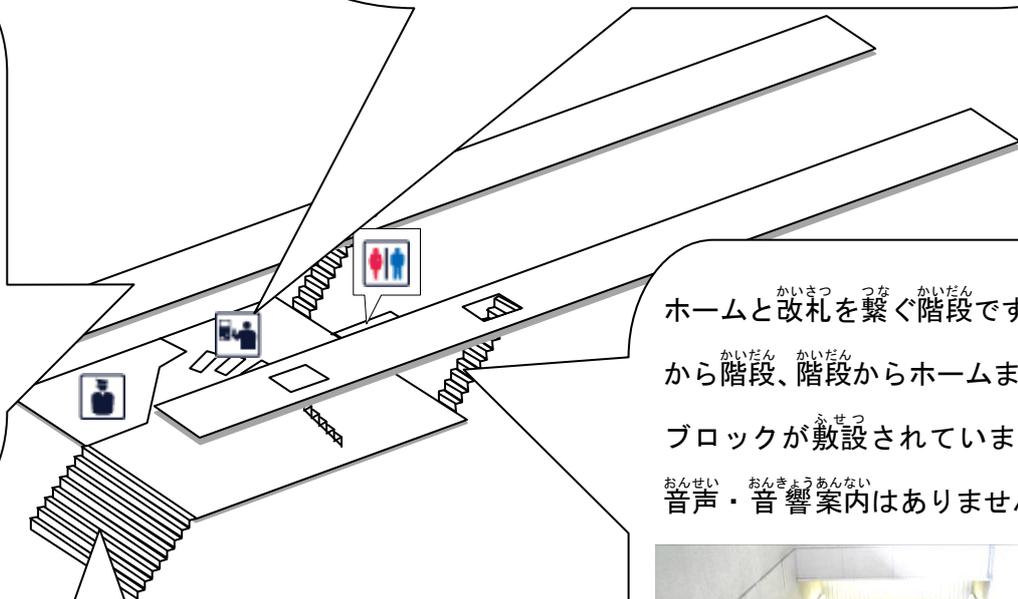
れていますが、

しかくしやうがいしや  
 視覚障害者の

あんぜんかくほ  
 安全確保のため

のなほうせん  
 の内方線があり

ません。

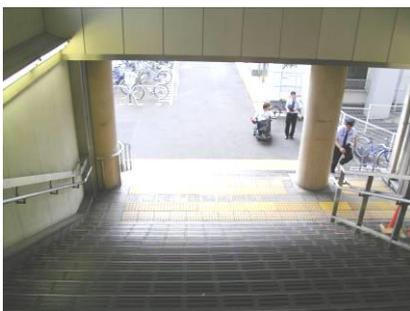
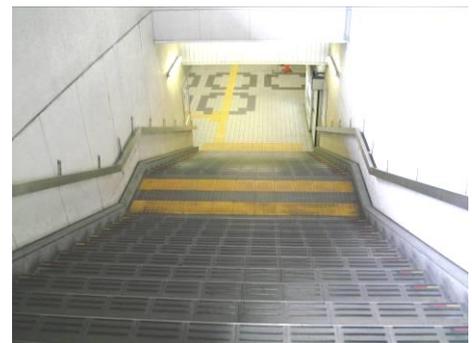


ホームとかいきつ つな かいだん  
 ホームと改札を繋ぐ階段です。改札

からかいだん かいだん  
 から階段、階段からホームまで誘導

ブロックが敷設されていますが、

おんせい おんきょうあんない  
 音声・音響案内はありません。



ひがしはごろもえき りよう さい  
 東羽衣駅を利用する際にはこの階段しかないの

で、くるま りようしや じようこう  
 で、車いす利用者が乗降する際には、階段昇降機

をつか じようこう  
 を使っての乗降になります。また、地上から

でいりぐち ちじよう  
 出入口にかけて誘導ブロックや音響・音声案内

等が設置されていません。





## 今回の調査の感想

今回の調査を通じて僕が思ったことは、やはり障害当事者を初めとする交通弱者に対する配慮が足りないということを再認識させられました。特に視覚障害者が移動する上で必要不可欠な警告ブロックや誘導ブロックが南海線羽衣駅から J R 東羽衣駅までの誘導が全くないことや、車いす利用者が駅を利用する際に階段を担いでもらわなければならない等、まだまだたくさん問題があると思います。また僕自身も調査をするに当たり、羽衣駅から東羽衣駅に乗り換えたが、構内図の通り階段が多く、羽衣駅の場合は、ホームから改札までを駅員に担ぎ上げられることや、東羽衣駅では地上から改札までと改札からホームまでを階段昇降機を利用し、乗降しなければならぬことなど、いつもの調査よりも3倍位の体力を消耗してしまうぐらい大変でした。

特に、東羽衣駅では電車に乗る時にスロープ板を使わずに昇降機のスロープを利用して電車に乗せるといふ、一駅員の思いつきとしか思えないやり方で乗車することになりました。また、東羽衣駅の場合は駅に駅員が1人しかいないこともあり、駅員から前もって連絡をしてほしいとのことでしたが、障害当事者だけが前もって連絡しなければならないということは、おかしいことだと思えます。また両駅共に肢体障害者や視覚障害者に対しての対応は、まだ、鉄道事業者内で研修等を行われているようですが、聴覚



障害者に対しての駅設備の配慮や研修等がなされていないことが問題ですし、何より両駅共に聴覚障害者の乗降状況把握していないことが問題だと思えます。

このように鉄道事業者ごとに対応が異なることや各駅員1人ひとりにしっかりと指導がいき届いていないと感じました。これからは駅員1人ひとりに指導し、駅利用者が円滑に駅を利用できるようにして欲しいと思えます。

## 各駅の駅員にインタビュー!

1日の乗降者数…延べ1万9千800人(2007年4月現在)

うち障害者の利用者数 肢体…週3人程度

視覚…常時利用している人が1人たまに利用している方が1~2人

聴覚…駅員は把握していない。

### 駅員からの一言

駅の設備の面で足りない所はあるけれど、足りない部分は人員で対応しています。

南海線羽衣駅

ジェーアルひがしはごろもえき  
J R 東羽衣駅

1日の乗降者数…延べ7千人(2009年7月現在)

うち障害者の利用者数 肢体…月に1~2人

視覚…たまに1人

聴覚…駅員は把握していない。

駅員から一言

東羽衣駅はエレベーターが一切ない為、車いすに乗っている方は階段昇降機を利用して頂かないといけません。駅に駅員が1人しか居ない為なるべく前もって連絡して欲しいです。

今回のリニューアルいかがでしたか？

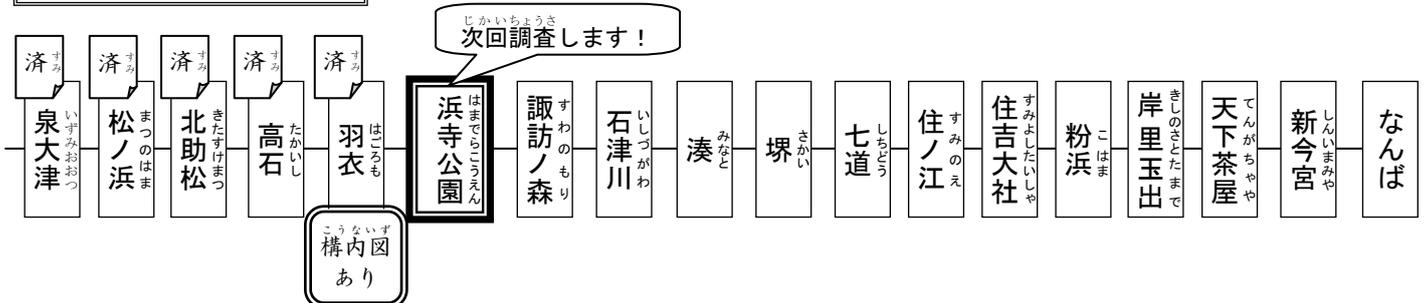
僕は今回5回目となるバリアフリー情報を皆さんにお届けするにあたって、よりどんな人にとっても分かりやすく、実用性のあるものにするために今回視覚障害の当事者である佐木理人さんにお話を聞かせて頂きました。その内容をバリアフリー調査に反映させ今までの調査よりいろいろな障害の視点を多く盛り込んだ内容となっています。また今回のバリアフリー情報からは、駅構内図を利用し解説していくことにより、より分かりやすく皆さんに情報をお伝えできると思います。

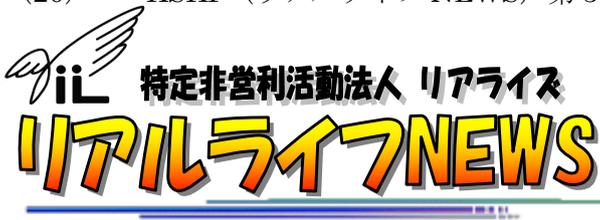


次回予告!

次回は、リアライズでも、花見やバーベキュー等で利用している南海線浜寺公園駅のバリアフリー情報を届けたいと思います。お楽しみに☆

南海線沿線(泉大津以北)





もくじ  
**目次**

- フィールドワーク始めました！！(P.2-4)
- リアライズヘルパー研修会報告(P.5-7)
- 特集1 夢の冒険！ダーツの旅！！(P.8-13)
- 特集2 暴れん坊将Kun プロデュース第6弾(P.14-19)
- もくじ(P.20)
- 編集後記(P.20)

へんしゅうこうき  
**編集後記**

皆さんこんにちは、季節の変わり目ですがお元気にお過ごしでしょうか？今回の通信は、新しい企画や、リアフリー情報のリニューアルなど、より一層皆さんにお役立て頂ける内容になっていると思います。これからもより楽しくより分かりやすいニュースレターを発行していきたいと思ひます。これからもよろしくお願ひします。

2009年7月27日 By 川本

我が家の寝室にはクーラーがないので毎日バケツで水かぶったような汗かいて寝てますが、全然全く微塵も瘦せる気配のないと一ますです。暑いといへば、今年の夏の一番アツい企画、TRY 2009 in 台湾が9月に敢行されます！リアライズからも暴れん坊川本が参加予定なのでみなさん応援よろしくお願ひします！

2009年7月27日 By と一ます

はっこうにん  
《発行人》

かんさいしょうがいしゃていき かんこうぶつきょうかい  
**関西障害者定期刊行物協会**

〒536-0023 おおさかじょうとうくひがしなはま みどりばし かい  
大阪市城東区東中浜2-10-13 緑橋グリーンハイツ1F

へんしゅうにん  
《編集人》

とくていひ えいりかつどうほうじん  
**特定非営利活動法人 リアライズ**

〒595-0071 おおさかふいずみおおつしすけまつちやう きたすけまつ かい てんぽ  
大阪府泉大津市助松町1-3-33 エクセラート北助松1階 店舗4

TEL : 0725-22-7716 / FAX : 0725-22-7746

URL : <http://www012.upp.so-net.ne.jp/Realize/>

ていか えん  
定価 : 100円